

会議・イベントにおけるカーボン・オフセット 普及促進策（案）

会議・イベントにおけるカーボン・オフセットを普及させていく上で委員や関係者からいただいたご意見をもとに現状の課題とオプションを示す。

（１）算定ツール

（現状）

- GHG 算定ガイドライン
- J-COF 相談支援

（課題）

- オフセットの実施を決定するにあたり、主要排出源の特定や予算確保のための事前算定に手間とコストがかかりすぎてしまい、オフセット実施の障害となっている。
- 信頼性の高いオフセットを実施するためには、データ収集や、算定の負担が大きすぎるため、次回以降の会議・イベントにおけるオフセット実施の断念につながっている。
- プロバイダーなどの代行業者は、会議・イベントのオフセットにおいては算定に手間暇がかかりすぎることで収益につながらないため、サービスの提供の断念につながっている。
- 誰でも容易に算定内容を確認することができるような算定ツールがないため、信頼性の高い算定を実施していることを分かりやすく示すことが難しい。

（考えられるオプション）

- 算定ツールの策定
 - 当検討会の議論を踏まえた認証基準やガイドラインをもとに、会議・イベントの規模やバウンダリおよび情報収集の可否などに応じて、条件を選択することで、誰でも容易に信頼性の高い算定を行うことができるようにする。
 - J-COFウェブサイトから容易にアクセスできるようにする。

（２）データベース

（現状）

- カーボン・オフセット推進ネットワークによる「カーボン・オフセットイベント事例集」・「カーボン・オフセット Database」

（課題）

- 効果的かつ効率的にオフセットイベントを実施するためには、同種の事例を参考とすることが望ましいが、現状そうした事例を探すことが難しい。
- 算定方法や削減努力、情報提供を検証するなどして、既存の基準やガイドライン、算定ツールの精度を高める上で参考となる信頼性の高いデータベースがない。

- 会議・イベントにおけるカーボン・オフセットの実施後に、その取組を多くの方に周知する場がない。

(考えられるオプション)

- データベースの策定
 - 前述の算定ツールを使用した事例を公募して掲載する。
 - その際、J-COFにおいて一定の確認を行い、ウェブサイトからアクセスできるようにする。
 - 容易に事例検索ができるようにする。

(3) グリーン購入との連携

(現状)

- 基本方針の前文に調達の際にカーボン・オフセット認証ラベルを参考にするという文言が記載された。
- 平成 21 年度検討会において、平成 22 年度重点改善品目に会議・イベントが明記されている。

(課題)

- 国・地方自治体・企業などでの取組事例件数のデータが示されていない。
- 認証ラベルが普及していない
- 現状、判断基準にカーボン・オフセットが入っていない。
- 環境負荷低減効果を示し切れていない。

(考えられるオプション)

- データベースの策定により国・地方自治体・企業などの事例件数を正確に把握する。
- より認証の取得しやすい基準、ガイドライン、算定ツール、データベースなどの支援策の実施により、オフセット事例件数の増加をはかる。
- 環境負荷低減効果としてCO₂削減や廃棄物の低減、信頼性の高いクレジットの使用を促進するとともに、データベースなどでその効果を可視化できるようにする。

グリーン購入法:「基本方針」の策定(第6条) 各機関が調達方針を作成する際の基本的事項



【目的】:環境負荷の低減に資する物品・役務(環境物品等)について

- 国等の公的部門における環境物品等の調達推進
- 環境物品に関する情報提供

【対象】:

- 国等の機関 → 国会・裁判所・各省・独立行政法人等で法人については政令で定めている。
- 地方公共団体・地方独立行政法人 → 努力義務
- 事業者及び国民 → 一般的責務

【構成】:

- ①前文(調達推進の基本的事項)
- ②特定調達品目及び判断の基準等

①調達推進の基本的事項

前文より抜粋:

3. その他環境物品等の調達の推進に関する重要事項
- (6)環境物品等に関する情報の活用と提供

～各機関は、提供情報の信頼性や手続の透明性など当該情報の適切性に留意しつつ、エコマークや、エコリーフなどの第三者機関による環境ラベルの情報の十分な活用を図るとともに、温室効果ガス削減のための新たな取組である**カーボン・オフセット認証ラベル**、カーボンフットプリントマークを参考とするなど、できる限り環境負荷の低減に資する物品等の調達に努めることとする。

カーボン・オフセットが一層普及する可能性

②特定調達品目及び判断の基準等

平成21年度 第4回特定調達品目検討会 資料5より抜粋:

平成22年度における重点改善品目の検討について(案)
現段階においては、以下に示す重点改善品目候補(案)の中から3品目程度を選
定し、分科会において検討を実施する予定である。

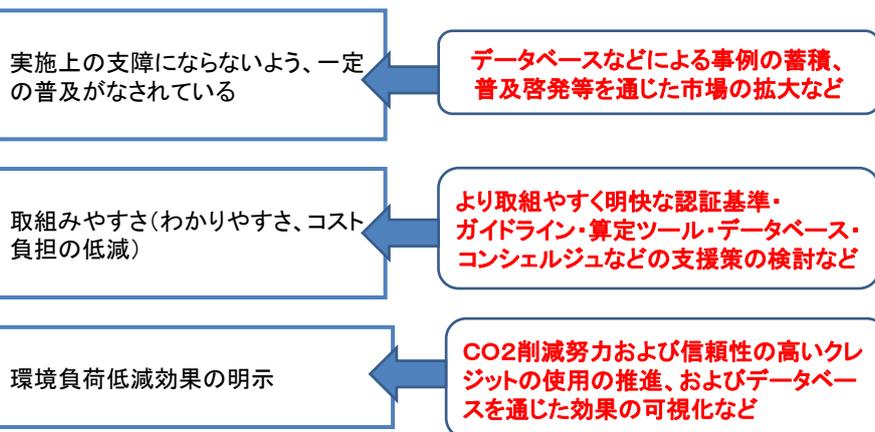
- (1)印刷
- (2)エアコンディショナー
- (3)会議、イベント
- (4)自動販売機
- (5)プロジェクタ



平成22年度には、印刷、自動販売機、プロジェクタについての分科会が設立され、
特定調達品目候補として判断の基準などについて検討が開始された。今後、会議、イ
ベントの分科会ができ、特定調達品目の候補として検討がおこなわれる可能性。

グリーン購入を通じた 会議・イベントにおけるカーボン・オフセット 普及に向けた施策(案)

グリーン購入の対象に会議・イベントのカーボン・オフセットになるためには？



(4) チャレンジ25との連携

(現状)

- チャレンジ25における6つのチャレンジの一つにカーボン・オフセットが位置付けられている。
- 地球温暖化やカーボン・オフセット、CO₂削減努力の手法について情報提供を行っている。
- カーボン・オフセットと同様に国民への普及啓発を主軸にしている。

(課題)

- とりわけ普及啓発効果がある会議・イベントにおけるカーボン・オフセットは、チャレンジ25との親和性が高く、連携することで、一層効果的に普及促進をはかると思われるが、現状は十分でない。

(考えられるオプション)

- カーボン・オフセットを実施するうえでの削減努力の呼びかけや、地球温暖化に関する情報提供などにあたり、チャレンジ25のウェブサイトや取組などを効果的に活用できるようガイドラインなどで示す。

【参考】 チャレンジ25とカーボン・オフセットの関係

